

野槌

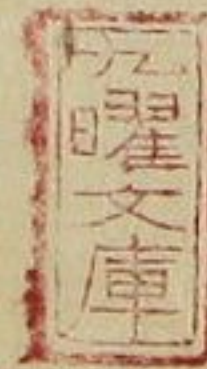
一上之七八





或人^ハ弓^ニの事^ヲをた^シて^ハ矢^ヲをた^シじ
 みて^ハ的^ヲし^り。師^ノの云^フ初^メの^ノ人^ノから^ハ矢^ヲ
 をた^シと^シる^ハ後^ノの^ノ矢^ヲは^ハい^はぬ^ハの^ノ矢^ヲ
 一^ツ矢^ヲの^ノ定^ムべ^シと^シ思^フと^シふ^ハち^ハづ^クも^ハ二^ツ乃^ハ矢^ヲ師^ニ
 け^レあ^リと^シひ^とら^しま^しる^ハよ^クと^シ思^フの^ノん^ハや^ハ懈^チ怠^チ
 乃^ハん^ハづ^クも^ハい^はぬ^ハと^シ思^フと^シふ^ハち^ハづ^クも^ハ二^ツ乃^ハ矢^ヲ師^ニ
 あ^リと^シ思^フと^シふ^ハち^ハづ^クも^ハ二^ツ乃^ハ矢^ヲ師^ニ
 夕^ニも^ハ朝^ニあ^リん^ハと^シ思^フと^シふ^ハち^ハづ^クも^ハ二^ツ乃^ハ矢^ヲ師^ニ
 事^ヲを^シて^ハ念^ヲは^ハぬ^ハと^シ思^フと^シふ^ハち^ハづ^クも^ハ二^ツ乃^ハ矢^ヲ師^ニ

本誌上巻



射也。一刹那のうちに心を止めて、懈怠なく、
何れも心を止むらんや。今此一刹那
をいへば、それには、心の一瞬の事

らひの事

中庸子曰射有似乎君子失諸正鵠

及求諸其身

孟子盡心上。太正不為拙工。改廢繩墨

羿不為拙射。變其彀率。君子引而不發。躍如也。中道而

立。能者後之

莊子田子方篇。列御寇為伯昏無人射。引之盈貫。措杯水

其肘上。發之適矢復沓。方矢復寓。當是時。猶象

人也。曰。義。引之盈貫。困弓而全備也。前手直而肘平

可以致一血水於其上。言定也。發射也。適去也。沓重也。又

也。矢方去而矢又在。絃上。沓於弦上者。總去而有表之矢。

又寓於弦上矣。此言一箭接一箭。如其神速也。象人

木偶人也

道を學ぶる人 論語里仁篇。朝聞道

死可矣。此言一朱文公勸學文。勿謂今日不

學而有來日。此言一義に過しと

一刹那 一彈指頃と一刹那

死の近事チカキをわしむる也。又生死シヨウジの如ごとく
もつゝはもつゝ實マコトの如ごとくもつゝ
もつゝ人ヒトいふもあざむら

牛ウシをうづりの 史記シキ貨殖傳カクシツデン。烏氏ウシ保ホ畜牧シヨク及ツキ流リウ
丹ニ賣ウ畜シヨク至シ用ヨウ谷コ量リヤウ馬バ牛ウシ任ニ氏シ力リキ田テン畜シヨク人ジン争セウ取ク賤ケン買バイ任ニ氏シ
独ドク取ク貴キ善ゼン橋キョウ挑テウ致シ馬バ千セン匹ヒツ牛ウシ倍バイ之シ

貨殖カクシツ傳デンのよるにをしむる牛ウシをを賣ウ
買カウしむるもつゝ一ヒト下カも甚シカ多タの牛ウシをを賣ウ
を。驪リ儻タウともし

一日イツニチの命メイ 大智度論ダイチドロン曰イハク。設セツ滿マン世セ象シヤウ宝ホウ無ム有ユ直チキ
身ミ命メイ

鵝カ毛モウも 司馬遷シマケン報ホウ任ニ卿キョウ書ショ人ジン固コ有ユ一イツ死シ。
或イハク重シユウ於オ太タイ山サン。或イハク輕ケイ於オ鵝カ毛モウ

死シをにニくクらば 孟子孟子告コウ子子篇篇生シヨウ亦モ我ガ所ノ欲キヨク死シ
亦モ我ガ所ノ惡ク

生死シヨウジれ相サウあつゝの 釈シヤク氏シハ不フ生シヨウ不フ滅メツを
涅槃ニハツとす。生死シヨウジ即ソク涅槃ニハツとす。根ネ未ミれ聖セイ憲ケン

乃ニハ穢タイ田テン中チュウ阿ア字ジ一イツ刀トウ生死シヨウジ亦モ断キリ涅槃ニハツ心シン
断キリとし。ササなナが死シを大ダイもつゝも愛アイむる

事ありふるといひ考れば死而不亡者壽といふ。
是皆生死の相はあつていふ理をさるる也。
魚好づ例の天台社老を好めらるる也。

實に理をえらるる也

玄義第一。心名不生。

吾復不滅心即實相

人いふもあはれり。老子下すの道とて

わらふとあるらんや

世に牛を傷むる亦易の無妄卦とて

かゞざれもの。牛を以て物物を傷むる類也。

相やふら無妄の卦云三无妄之災或擊之牛

行人之得邑人之災象曰行人得牛邑人災也

いふころいたを切人あり。人かほはなげり

をひいてさる。其邑人を考。わらふとあるらんや

きつるもさるる。いふ。災はあはれ也。

牛の地失を以て思ひの如く。災難はあはれ

無妄の災あり。无妄の災あり。の也。云三乃

信。さるるにさる。あはれなり。いふ。わらふとあるらんや。

意あり。あはれ。災なれ。又業。さるる。歎

人。あはれ。の也。市町の民。いふ。た

よら。千石の家。万石の家。を移らば。いふ。家

しりた^えもー^いのー^い

箱^コれら^らの^この^に結^ブな^つら^な事[。]づ^づの^まは^に
け^け付^くぶ^きさ^さめ^めあ^り有^テ職^ノ人^ノ多^ク付^け
ま^まの^こ軸^チよ^つけ^表紙^ニは^はら^ら事[。]西^ヤ院^{セツ}
院^ノづ^づれ^れ籠^ノ也[。]又^ノの^おの^のあ^いり^くは^は者[。]
よ^よに^にく^くの^こ箱^コよ^ま軸^チよ^つく^くも^も常^ツ此^事
也[。]と^とわ^わら^らは^はま^まの^の也[。]

軸^チと^とた^た表^ヒ紙^ニと^と名^ナ也[。]昔^ノの^のあ^いり^くは^は者[。]
か^かの^のあ^いり^くは^は者[。]付^けら^らと^と名^ナの^のあ^いり^くは^は者[。]
あ^あの^のあ^いり^くは^は者[。]を^をり^りと^と名^ナの^のあ^いり^くは^は者[。]
し^しも^もの^のあ^いり^くは^は者[。]付^けら^らと^と名^ナの^のあ^いり^くは^は者[。]

め^めれ^れも^もの^のあ^いり^くは^は者[。]付^けら^らと^と名^ナの^のあ^いり^くは^は者[。]
人^ノの^のあ^いり^くは^は者[。]を^をり^りと^と名^ナの^のあ^いり^くは^は者[。]
と^と名^ナの^のあ^いり^くは^は者[。]

めなま

和名集。本草注云。葉耳。一名葉耳。未

葉音子。和
名。奈毛。羨

今俗。稀。奈。羨

をめぐらしみともあり。其辭義。蒼耳は似て
ほゆへうへし。蒼耳を蛇傷のありはけり
と。本草よはるくとも。又天右精。地菘。鶴虱
は三をめぐらしみともあり。或はつめありとも
号とも。鶴虱。地菘の實也。本草よ。地菘を虫
けり。和名集り。天右精を。海づらみとも。和名集り。非
とも。とも。於。則。地菘あり

其物うつさて。物を費し。その物づら
志。ともあり。り。も。取あり。あ。は。日。あり。國
賊あり。小人は財あり。君子は仁義あり。僧は
法あり

小人は財あり。君子は仁義あり

老子曰。大道廢有仁義

莊子駢拇篇。意。仁義其非人情乎。彼仁人何其多憂也。
仁義又奚連之。如膠漆。纏束而遊乎道德之間。多憂哉。
使天下惑也。虞氏招仁義以撓天下也。奚必伯夷。是而
盜跖。非乎。天下盡殉也。彼所殉仁義也。則俗謂之君

みるに我をあらわすは軍也。項羽の率は疵を
かぞへ血をとりて婦人の仁也。古今我のしほ
きんをとりてさうの非義の義也。俗儒の仁義を
しる事也。とらへて人得るも名母かゝる事也。
跡母らびる者もあり。疵をあらはる。在老のふあ
じ。俗儒も仁義のはらへて一取人かゝる事也。
仁義よりわけてむらして仁義を行ふあらず。
性善の理のままにほいて慍隠しる時あり。善
悪も時もあり。是もて我をあらはる。人教を
やする。天より生れはくすの性ならしむ。毛は
はらばらる。増減しる事也。俗儒の率也。
利益とて。君父をすく。在老の性。澹然を
を道とて。仁義の人の性。あり。とて。いふ。
或は不思善不思悪といひ。善悪不二。邪正一
如といひ。或は善をすく。名ふらう。く事ある。
悪をすく。刑ふらう。はく。こと。な。れ。い。い。仁義
をせむ。淫僻をまじ。い。是皆善悪の中間
よ。ん。を。あ。ら。わ。す。後。は。い。は。ら。か。り。事。を。記。の。小。人
い。い。か。ら。う。し。は。ら。わ。た。で。仁義を。も。君。を。と。つ
い。や。と。あ。ら。わ。す。て。も。は。風。家。の。前。不。ひ。を。合。て

本居宣長

痛^シじ^シ道^シ好^シ詞^ハは^ハい^ハあり^キ病^{アリ}あり^ト入^ルわ^キま^ス
あ^らじ^しん^の人^をう^こる^ふ處^一

或^ハ本^ニ財^ヲよ^シ人^{あり}仁^義小^君あり^法は^ホク^タ
あり^トか^げの^道好^ガ詞^ヲを^こも^とを^てう^んお^して^一
か^くあ^らじ^しめ^らる^人一^とれ^ど駢^拈篇^ハ格^格
あ^らじ^しん^の意^ぬが^ハ中^ニあ^らじ^しあ^ら

一 言^ハ芳^ク後^ハも^もよ^びけ^ら草^ヲを^見付^けら^し
一 志^ヲを^ませ^とわ^あ海^ニ思^ふ事^ヲに^た
一 後^世を^思ふ^人老^ク難^ク法^ヲ解^ス一^のし^らめ^しき^一
一 道^世者^ハの^心を^まげ^おや^うに^しら^し
一 上^ノ鴈^ハ下^ノ鴨^ノよ^るわ^ら智^者ハ^愚者^ニな^るわ^ら
一 述^人ハ^之を^能あ^る人^ハ之^を能^ある^女

一 志^ヲを^ませ^とわ^あ海^ニ思^ふ事^ヲに^た
一 後^世を^思ふ^人老^ク難^ク法^ヲ解^ス一^のし^らめ^しき^一

一 志^ヲを^ませ^とわ^あ海^ニ思^ふ事^ヲに^た
一 後^世を^思ふ^人老^ク難^ク法^ヲ解^ス一^のし^らめ^しき^一

一 志^ヲを^ませ^とわ^あ海^ニ思^ふ事^ヲに^た
一 後^世を^思ふ^人老^ク難^ク法^ヲ解^ス一^のし^らめ^しき^一

一 志^ヲを^ませ^とわ^あ海^ニ思^ふ事^ヲに^た
一 後^世を^思ふ^人老^ク難^ク法^ヲ解^ス一^のし^らめ^しき^一

一 志^ヲを^ませ^とわ^あ海^ニ思^ふ事^ヲに^た
一 後^世を^思ふ^人老^ク難^ク法^ヲ解^ス一^のし^らめ^しき^一

一 志^ヲを^ませ^とわ^あ海^ニ思^ふ事^ヲに^た
一 後^世を^思ふ^人老^ク難^ク法^ヲ解^ス一^のし^らめ^しき^一

一 厨中よりあり

佛道を修めんとすべし別乃とあり

あるものにあらざれば世の事をんよきものを
第一にたると

けおもあつていものむかひし

糞は純 ぎんだいぬみそ也純はつばり

糞は純も糞は純も 秦大にもあり 浄石集

大原の僧正 徳生要集をよめしるるを法

然坊春乗坊 睦まをりしるる時 去るは秦

大瓶一にも 執んまじきこと也と 然

坊へトされしるる大原僧正 徳生の感涙を

かたがしらるるらん 又精進魚類物語には 糞は

れとあり玉篇云 糞 息感及以米 糞 古 糞 糞

うにありはりらまじきことあり 道世云

ようごうごうと 儒学をせんものも 糞を初べ

謝上 蔡五経 此要語をあつて 母子と

明道はんをさるる 玩物喪志 ことられ 妙

ら汗をるる 又よれ 硯と 秘苑 けり

が 終は 母子と 硯も けり けり けり

二程全書は けり けり けり けり けり

本道集

上

食をすつ思ふもたつれ。聖人の終つち。
上臈と臈は出家しつち若くは若くをすつ枝
戒してすつ一其九旬は勤行しつちを臈と
云。僧臈戒臈是也。僧の位。戒臈乃前後
よりす。次弟しつち也。是よりす事は次弟しつち
を臈次しつち。職原も。極臈にありも。位階の
名也。然しつち上臈下臈は上位下位しつちいふんが
ごとし

智者ハ思ふ存しつちなり。史記。老子曰。君子成德

容貌若愚。荀子曰。孔子曰。聰明聖知守しつち以愚功被天下

守之。以謙。勇力撫世。守しつち以怯。富有四海。守しつち以謙。世所謂
拙而損之之道也。

通鑑曰。論語曾子曰。能同於不能。以多同於寡。有若無。
實若虚。犯而不校。昔者吾友嘗從事於斯矣。唐太宗
問世儀於給事中孔穎達。穎達具款其義。以對。且曰。
非獨匹夫如是。帝王内蘊神明。外當玄默。若位君尊極。
炫耀聰明。以才凌人。飾非拒諫。則下情不通。取亡之道
也。

佛道を承ふ。禪家に放下着こつち
は業事をなすつちをいふ

けりてあはれし

孟子一章下。孟献子有友五人焉。樂正裘。牧仲。其三人則予忘之矣。

塘川相國の義勇乃た好まき人としてそのこと
なくとも老をのみ給りてその子基俊を大理
にする。廳務たこなられける。廳屋は唐櫃に
どろりとせめてく作り改らるべしとの傳
まける。よび唐櫃はと古くわたりてその始を
ど。數百年をくく累代の公物古弊をもちて
規模を改めよとくあつてその改らるるは

實に法官等トクれ其事やにきり

塘河れお國 基具公也。久我乃門

包美 木こもりの義也

大理 職原曰。換非遣使。使。信和天皇御宇。元長年中

初置之。異朝元重。職首唐虞代。皋陶為士。大理周礼

官之目。本司冠即也。任也。後代置大理寺。本朝又以刑部

省為判之官。元長年中。准唐朝置使廳。蓋是大理

寺也。但別當下。為宣下職。為衛府之人補之。

別當人。唐名大理卿。夫多議已上。尤扶其人也。補職之人

ば、^{カキ}カキ^{ヨシ}ヨシ^{コウ}コウもト部^{カキ}カキ^{トモ}トモ鏡^{カキ}カキ^{ハシ}ハシ^ケケ

おのつら。和名集。金梳。日本霊異記云其器皆鏡。

俗云賀祭万利今按鏡字所出未詳。古語謂梳為金梳。利垣用金梳二字也。梳、昆、益字。

まありをさぶらわるといふ事。又おがつの外

或説よ貝をとりて作る飲器をさぶらわるといふ。

奥列をさぶらわるといふ事。又おがつと云ん

或人任^シシ^キキ^エエ^ノノ^内内^ノノ^辨辨^をを^つつ^とと^めめ^のの^儀儀^也也

おのつらの^シシ^キキ^エエ^ノノ^内内^ノノ^辨辨^をを^つつ^とと^めめ^のの^儀儀^也也

とほき^シシ^キキ^エエ^ノノ^内内^ノノ^辨辨^をを^つつ^とと^めめ^のの^儀儀^也也

内^キキ^ノノ^康康^綱綱^衣衣^らら^のの^女女^房房^とと^いい^はは^儀儀^也也

を^りり^をを^ささ^ぶぶ^らら^わわ^るる^とと^いい^はは^儀儀^也也

任大臣の^シシ^キキ^エエ^ノノ^内内^ノノ^辨辨^をを^つつ^とと^めめ^のの^儀儀^也也

西^シシ^キキ^エエ^ノノ^内内^ノノ^辨辨^をを^つつ^とと^めめ^のの^儀儀^也也

内^シシ^キキ^エエ^ノノ^内内^ノノ^辨辨^をを^つつ^とと^めめ^のの^儀儀^也也

宣命^シシ^キキ^エエ^ノノ^内内^ノノ^辨辨^をを^つつ^とと^めめ^のの^儀儀^也也

巻上^シシ^キキ^エエ^ノノ^内内^ノノ^辨辨^をを^つつ^とと^めめ^のの^儀儀^也也

失^シシ^キキ^エエ^ノノ^内内^ノノ^辨辨^をを^つつ^とと^めめ^のの^儀儀^也也

失^シシ^キキ^エエ^ノノ^内内^ノノ^辨辨^をを^つつ^とと^めめ^のの^儀儀^也也

索^{ソク}三^ミ甲^{カウ}而^ニ馳^チ疫^イ鬼^キ焉^ヤ東^{トウ}海^{カイ}度^{タク}索^{ソク}山^{サン}有^リ神^{カミ}茶^チ樹^{ジュ}封^フ壘^{レイ}之^ノ神^{カミ}
以^テ禦^ニ凶^{キウ}鬼^キ為^シ民^{ミン}陰^{イン}害^{ガイ}因^テ制^シ駟^シ儼^{ゲン}之^ノ神^{カミ}乘^リ之^ノ先^マ臘^{ラク}一^ニ日^ニ大^ニ
儼^ス謂^フ之^ヲ疫^イ 呂^ロ氏^シ春^{シュン}秋^{シュ}云^ク前^{ゼン}歲^{サイ}百^{ヒャク}擊^{ツク}鼓^コ駟^シ疫^イ痛^{ツク}
之^ノ鬼^キ謂^フ之^ヲ害^{ガイ}除^ル亦^ト曰^ク儼^{ゲン}

洞^{ドウ}院^{イン}のたむら 實^{サチ}泰^{タイ}公^{コウ}又^{マタ}号^スは山^{サン}本^{ホン}
次^ジ弟^{テイ}をり^リ侍^シれ 追^{ツイ}儼^{ゲン}と^ト行^{ユク}の^ノ事^{コト}也^{ナリ}

又^{マタ}五^イ郎^{ロウ}男^{ナリ}

博^{ハク}と^ト 法^{ホウ}の^ノ被^ヒ官^{カン}火^カを^シく^ク物^{モノ}也^{ナリ}

軾^{セキ} 名^ナ目^メお^オの^ノ膝^{ヒザ}突^{ツキ}と^トあ^アり^リ小^コ半^{ハン}思^シは^ハり^リす

る^ルる^ルる^ル和^ワ名^ナは^ハ軾^{セキ}と^ト車^{クルマ}前^{マエ}を^シり^リと^ト車^{クルマ}を^シり^リ

我^ガみ^ミこ^コの^ノあ^アり^リ然^シい^ハじ^ジい^イと^トる^ルあ^アり^リす

火^カ毎^{マイ}と^トる^ルひ^ヒら^ラが^ガ 火^カの^ノあ^アり^リと^トる^ル

此^{コノ}火^カの^ノあ^アり^リと^トる^ル火^カの^ノあ^アり^リと^トる^ル火^カの^ノあ^アり^リと^トる^ル

和^ワ名^ナは^ハ助^{スケ}鋪^ポと^トあ^アり^リと^トあ^アり^リと^トあ^アり^リと^トあ^アり^リ

如^ニ極^{キョク}屋^エ也^{ナリ}

大^{ダイ}覺^{カク}寺^ジ殿^{テン}と^トる^ルと^トる^ルと^トる^ルと^トる^ルと^トる^ルと^トる^ル
忠^{チュウ}守^{シュ}と^トあ^アり^リと^トあ^アり^リと^トあ^アり^リと^トあ^アり^リと^トあ^アり^リと^トあ^アり^リ
我^ガの^ノあ^アり^リと^トあ^アり^リと^トあ^アり^リと^トあ^アり^リと^トあ^アり^リと^トあ^アり^リ

本^{ホン}三^{サン}道^{ドウ}二^ニ天^{テン}

二^ニ十^{ジュウ}一^{イチ}

えぬ忠孝うれはなるへはまほしくいけり。唐祚
子らふはたかしくあらばまほしくいけり。唐祚
けり

大嘗寺殿 ぼろむらたけ也

くしく忠守 丹家康頼十世忠守典薬頭内

院 昇殿。奇人正四位下

公明 侍従。兼官也 正親町 三条 藤原流也

かきりく 断の字なり。玉篇 謎 味 切 隠 語 也

かす靴子 平氏忠盛の義也。忠盛ハ清盛ハ父

也。かす靴子の名。音ののり。あはぬ唐也

我みことあり。然らばいづかきと申す。あはぬ唐也

火角とてさうひくらげ かんたりのとあそ

たぬ火角とてさうひくらげの清つ物をさ思へ

和名。助鋪とてさうひくらげの清つ物をさ思へ

如。括。屋也

大嘗寺殿とて。おぼれ人ともなぞしくと作

ひらきとてさうひくらげの清つ物をさ思へ

くらくら。信。大。油。言。と。明。つ。我。の。乃。者。と。ん

えぬ忠^{タモリ}ありれはなぐりくよとせられにけりよ唐^{カラ}新^フ子^シの^シあはれなるはなほしむるはあはれなり

大^{オホ}なる^{ナリ}殿^ノ ぼ^ボう^ウの^ノ後^ノ也^也

く^クく^ク忠^{タモリ}守^{モリ} 丹^ニ家^ケ康^{ヤス}頼^{ヨリ}十^ト世^セ忠^{タモリ}守^{モリ}典^ニ藥^{ヤク}頭^ク内^ノ

院^イ日^ヒ兼^カ殿^{テン}哥^カ人^ニ正^{マサ}四^シ位^イ下^カ

公^{キミ}明^{ミナ} 侍^シ後^ノ兼^カ官^{クワン}也^也 正^{マサ}親^キ町^{チヨウ} 三^ミ条^{ジョウ}庶^{シヨ}流^{リウ}也^也

か^カぶ^ブり^リく^ク 断^{タガ}の^ノ字^ジを^ヲわ^ワ玉^{タマ}篇^{ヘン}謎^メ 隠^{カクレ}詠^{エイ}也^也

か^カる^ル瓶^{ビン}子^シ 平^{ヘイ}氏^シ忠^{タモリ}盛^{セイ}の^ノ義^ギ也^也忠^{タモリ}盛^{セイ}ハ^ハ清^{キヨ}盛^{セイ}は^ハ父^フ

也^也平^{ヘイ}氏^シの^ノ名^ナの^ノ音^ネ的^{テキ}の^ノり^リよ^ヨあ^アら^ラぬ^ヌ也^也

忠^{タモリ}盛^{セイ}平^{ヘイ}氏^シ也^也即^{ソウ}ち^チ瓶^{ビン}子^シ也^也瓶^{ビン}子^シ平^{ヘイ}氏^シ者^{シヤ}相^{サウ}通^{トウ}

し^シら^ラあ^ア平^{ヘイ}家^ケ物^{モノ}語^ゴも^モあ^ア常^{ジョウ}の^ノ侍^シ伊^イ勢^{セイ}を^ヲ

い^イづ^ズら^ラし^シら^ラあ^アわ^ワと^トあ^アら^ラ廉^{レン}谷^コに^ニ會^{カイ}合^{カフ}は^ハ

あ^アら^ラい^イづ^ズら^ラあ^アら^ラぬ^ヌの^ノく^クび^ヒと^トら^ラぬ^ヌ也^也

平^{ヘイ}氏^シの^ノ名^ナの^ノ音^ネ的^{テキ}の^ノり^リよ^ヨあ^アら^ラぬ^ヌ也^也

後^{ノチ}よ^ヨし^シら^ラい^イづ^ズら^ラあ^アら^ラぬ^ヌの^ノく^クび^ヒと^トら^ラぬ^ヌ也^也

か^カま^マら^ラい^イづ^ズら^ラあ^アら^ラぬ^ヌの^ノく^クび^ヒと^トら^ラぬ^ヌ也^也

乃^{ソノ}勢^{セイ}也^也 夫^{ソノ}謎^メの^ノ隠^{カクレ}詠^{エイ}も^モ唐^{カラ}詠^{エイ}也^也

い^イづ^ズら^ラあ^アら^ラぬ^ヌの^ノく^クび^ヒと^トら^ラぬ^ヌ也^也

史^シ記^キの^ノ滑^{クワ}稽^{ケイ}傳^{デン}漢^{カン}書^{ショ}に^ニ東^{トウ}方^{フウ}朔^{シャク}郭^{クワク}舍^{シャ}人^ニ也^也

木^キ下^カ二^ニ三^ニ

覆射しらののこづひ。六叱く胡来の勢。その外唐
七則夫の時。許欽明突厥のしき。その靈列城
母至のたよ。そのつら。義將周梁米と墨と
をいそぐ。良將の精兵をいそぐ。をいそぐ
びと。とら。又待。いそぐ。あわ。

宋陳匪自為ニ亞字謎日。若教有口便啞。且要無惡為惡。中間
全後肚腸外面任生稜角。又荆公作詩謎云。佳人伴解索人
技露出背前白雪膚。走入綉幃尋不見。任他風雨滿江湖。
乃賈寫李白羅隱潘閏四詩人名也。元祐間士大夫好事者。
取達官姓名為詩謎。如長空雪霽見虹蜺。行盡天涯思

帝畿。天子手中執手簡。秀才不肯着麻衣。謂韓絳馮京。
王珪。曾布也。又取右人而傳以今事。如人皆戴子瞻帽。君
實新未轉。官以狀送還王介甫。路公身上不曾完。謂
仲長統司馬。謝安石。溫彦博也。又遊齋閑。見王荆公戲
謎云。益時圓。寫時方。夕日短。夏時長。呂吉甫。解云。東海
有一魚。無頭亦無尾。更除脊梁骨。便是這日謎。世更
類說。事文類聚。等よ。あ。

古樂府。其藁礎。よ。つら。あ。明。白。王。雜
録。よ。蘇。頌。尹。の。字。を。解。く。曰。く。丑。雖。有。足。甲。不

全身見君無口。知伊少人。是八字とて折して之。又玉臺
清話。丁父果善射覆。其宗置物罾中。父果曰。

鶻と、雀と、山中探花。雖無官職。百兩衙。啟之乃擗也。

又取一物令射。父果曰有頭有足。不石即玉。欲要猶須少。

雙入腹乃壓書石龜也。是ともあて方朔の遺流なり。

る

荒らる家の人めなまふ女れらぶ家事ある

こぼるばはれこぼるこぼるを或人こぼる

し終らんともたつておのぞくおのぞくおのぞく

まのびておのぞくおのぞくおのぞくおのぞく

おのぞくおのぞくおのぞくおのぞくおのぞく

やうおのぞくおのぞくおのぞくおのぞくおのぞく

おのぞくおのぞくおのぞくおのぞくおのぞく

おのぞくおのぞくおのぞくおのぞくおのぞく

あけはらおのぞくおのぞくおのぞくおのぞく

おのぞくおのぞくおのぞくおのぞくおのぞく

おのぞくおのぞくおのぞくおのぞくおのぞく

おのぞくおのぞくおのぞくおのぞくおのぞく

おのぞくおのぞくおのぞくおのぞくおのぞく

うかへておこしちすの御いそひなほまのあはれ
 けしきもいそひもいそひもいそひもいそひもいそひも
 らあへておこしちすの御いそひなほまのあはれ
 はもよ

けしきもいそひもいそひもいそひもいそひもいそひも
 もよひもいそひもいそひもいそひもいそひもいそひも
 らあへておこしちすの御いそひなほまのあはれ
 はもよ

のあはれもいそひもいそひもいそひもいそひもいそひも
 けしきもいそひもいそひもいそひもいそひもいそひも
 もよひもいそひもいそひもいそひもいそひもいそひも
 らあへておこしちすの御いそひなほまのあはれ
 はもよ

馬のあはれもいそひもいそひもいそひもいそひもいそひも
 けしきもいそひもいそひもいそひもいそひもいそひも
 もよひもいそひもいそひもいそひもいそひもいそひも
 らあへておこしちすの御いそひなほまのあはれ
 はもよ

男ありくひそく聖たるを地へおろしてがれ聖
 いわゆるあしとらめて。この希むれ狼藉うれ
 四部乃事なれ比丘より比丘尼はなをとり
 比丘尼より優婆塞いそより優婆塞より優
 婆塞いそをれあつてはく乃優婆塞いそ
 けりして比丘を地へ蹴入るも未曾有の事
 行るやといれまはす。比丘の男いそあは
 せしあやん。そを交するの事よ上人
 るはいそよそ何といふぞ。非修非学の男と。
 ああこの事いひて。なまらあまの放そしつと。
 思ひくはなまら馬ひいそくくくく
 くらたうとくらたういひたうく

狼藉 藉は踏也狼の物をあちくく

みざれぐも後也漢書にふくく

四部の中子法華經比丘比丘尼優婆塞

翻譯名義集第一比丘比丘尼清静信舍故又曰名舍

一破惡二怖魔三居士又翻云除餘比丘尼通稱安為尼尼得

無量律儀故應改比丘又稱阿姨優婆塞名信寺男優婆塞

名信寺女又云清淨寺清淨女雖在若家持戒男男女女不同

故云善宿男女

志れらる女房

ぶれらる女也

堀川の内大臣

具守公也。号岩倉内大臣

堀河風正三太納言
通領 具安貞

從一太政大臣
基具 具守
堀河太政大臣 後一右大臣

いしく

浄土寺に前関白

九條殿師教云。号巴心院又号

浄土寺。元應二年三月七日。薨。四十四歳

安嘉の院 後堀川院女御。浄土寺大政入道公房公

れ女也

山階の左大臣

實雄。實氏公の弟。西園寺に

一家洞院

みく人よむららぬ女 是より一物も

れらのいづれ事をも

人我の相も

藏乘法教云。般若四相

我相	執取自体
人相	数取餘趣
衆生相	種々愛異相續
壽者相	一報命根不断

おぼしむ人相。これれらるる

たり。をゆかめてをこころ人のいふ

し。縁らるといふ。是をいふれらる

木下

三十一

幾人なるらん人なるらん人の一錢はれ
 まじり地刺非也いさよはれをば
 こびてやまされに我を路らばよひてはれ
 ぼる人の月を捨ててはれよ
 一念にやいへくしは事なれし人
 まつて我れがけいふ失くがと告げ
 せらんよまのりあひはれ事なつた
 ろまの事なつてはれ我れはらるる
 月あんぞも時をいへくはれ人の
 飲食便利睡眠言語行末おし事なえ
 しておひくの時なれはれはれはれはれ
 くにまらぬらん先益のまなれ
 以ひあふものも思惟く時を移すの
 日を法一月を日してはれ送はむら
 らわ謝霊運は車の等妻なるらん
 常は風中思惟を記せしは白蓮の交
 をゆるさむらばはれはれはれはれはれ
 一先陰なまのいあはれはれはれはれ
 思ふあはれはれはれはれはれはれ
 せん人のはれはれはれはれはれ

寸陰のむ 惟南子曰。聖人不貴尺璧而重寸

之陰。時難得而易失也。

晋陶侃曰。禹惜寸陰。人可惜分陰。

あれくまきり 理を初る老後と悟ぬ。

一日れら飲食 莊子盜跖篇。人上壽百歲。中

壽六十。下壽六十。除病瘦死喪。真壽。其中開口而笑者。一

月之中。不過四五日而已矣。天与地無私。人死者。有時。操

有時。具而託於無窮。之間。自然無異。騏驎之馳。過隙

也。不能說其志。意。養其壽。余者。皆非。通。道。者。也。

我々もくげり人々の目の居る所は。たゞし。く。牛

羊れ毎々。今。似。ころ。無。心。の。事。を。く。く。生。は

ゆ。く。は。る。枉。過。一。生。議。旋。磨。と。云。ふ。似。ころ

謝靈運は法華に筆受

南史。謝靈運。幻。類。悟。文章。之。義。与。類。延。為。江。九。第。五

物。親。謝。与。族。弟。惠。連。為。別。題。交。每。對。之。輒。得。佳。詔。嘗。於

永嘉西堂。思。詩。不。就。忽。夢。惠。連。即。得。池。塘。生。春。草。一。く

句。常。云。此。語。有。神。助。宋。元。嘉。中。為。永嘉。守。郡。有。名。山。水。

殊。意。遊。遊。尋。山。涉。嶺。必。造。幽。峻。登。蹊。常。着。木。屐。上。山。

去。前。嵩。下。山。去。後。嵩。与。何。長。瑜。等。為。四。友。亦。字。客。兒。

魏父爵封康樂公世稱謝康樂

通鑑綱目曰宋元嘉六年謝靈運有罪誅靈運好為

山水遊後者數百人伐木開徑百姓驚擾或表其有

異志靈運詣淵自陳上以為險川內史靈運遊放自若

為有司所糾遣使收之靈運執使者與兵逃逸作詩

日韓云子房奮秦帝魯連恥追討擒之上表其亦除

死徙廣陵已而無市

三休詩黃滔遊東林寺詩翻譯如曾見百蓮新滿池

註庐山記謝靈運即東林翻涅槃經曰發誓植蓮池

中詩意謂見白蓮猶見靈運

正法華添品法華。芬陀梨法華。妙法華經

こししてなる翻譯あはれ靈運の名いあはる

了譽も。其運法華執筆ありといふされり譽

も。其好らほの世の人あはれ。こしおほつらり。

しれせよ行り。妙法華の音の羅什乃翻譯

て其才子僧睿の筆受あり。天竺梵語と唐土

より通事する。翻譯いふ。其を唐字より

うつし。筆受と云。涅槃經の靈運の筆受也。

淨土宗れり譽。直牒あり九。惠遠法師衆を

あつめ四十八日念佛と行。測明靈運其の

高僧傳 晉惠遠見庐山峯清靜是以息心始住龍泉精舍
 刺史桓伊乃為遠於山東立房殿即東林也絕塵清勝之
 窟並不期而至彭城劉遺民豫章雷次宗廬山周續之
 新蔡畢穎之南陽宗炳等凡百有二十三人並盡遺業
 依遠遊止庐山記遠法師居廬阜三十餘年影不出山
 跡不入俗送客過虎溪虎輒鳴號昔陶元亮居栗里山南陸
 脩靜亦有道之士遠師嘗送此二人与浩道合不覺過之因
 相与大笑今世傳三笑圖

事文類聚前集云謝靈運求入淨社遠師以心難止
 范甯在豫章遠師請入社范不從後
 遠空閒鐘有省擯眉而去
 遠於精舍无量壽像前建齋立社期至西方陶元亮訪
 遠空閒鐘有省擯眉而去
 三体詩註云高僧傳劉遺民雷次宗等依遠公於廬山

事文類聚前集云謝靈運求入淨社遠師以心難止
 范甯在豫章遠師請入社范不從後

序草雜記。遠師結白蓮社。書招陶明。陶曰。居士嗜
 酒。若許飲。即往矣。遠謝之。遂造焉。因勉令入社。陶擢眉而去。
 嵩冲靈抄書記。謝靈運。致遠公社。遠公拒之。早子髮。鎮
 而頰。義面与身。房非令終。相請多行。陰德戒飭。三年。而
 後。可靈運。怒曰。學道在。心要。以貌耶。遠笑而不答。後靈
 運。果如遠所。種。盧循及遠。与之执手。言笑。知人。鑑。何明
 於靈運。而瞻於循。如世耶。 黃子耕。乞謝靈運墓。
 詩曰。心雜難為蓮社友。翻經肯与俗流通。可憐一對
 登山履。埋在地塘芳草中。

風雲之思。 雲邊風月。を吟詠し。ら。と。の
 かな。あ。ら。も。漢。北。二十。八。將。を。風。雲。乃。將。と。し。て。
 龍吟虎。凍の。心。あり。て。時。の。勢。小。乘。し。て。功。名。
 を。ま。ご。ん。と。た。し。ん。也。
 謝靈運。晋。北。謝。奕。の。孫。に。て。文章。も。妙。なり。
 然。も。宋。乃。劉。裕。の。代。を。う。ば。は。あ。ま。の。
 ま。は。て。官。位。を。け。こ。あ。ま。り。い。ま。に。遊。山。
 翫。水。し。て。民。は。づ。づ。ひ。ま。な。の。お。ま。人。う。さ。う。
 ひ。て。謀。反。を。し。ら。と。つ。て。被。囚。宋。の。君。靈。運。

を言つてんとして時彼は兵を動かして晋の
とめは仇としてしん事張良が韓のために
とらざるもせんともなみつてつとどどど
宋母つてこれにかんが張良があつたま
何ドせんやほして運つてつとつとつと
まぬ例の晋の隠逃して満同は風
宋乃年をけつて我らよんつとつとつと
かのまは法師は二人をくくつとつとつと
は奇物もつとつと遠師もつとつとつと
中の英俊もつとつと佛經のせよつとつと
はめ早二事練まるとつとつとつとつと
業をのつとつとつとつとつとつとつと
在老は肺肝を廣長舌は根本とつとつと
吾道とつとつとつとつとつとつとつと
得てあるしつとつとつとつとつとつと
事もつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつと
師よく運を志つてつとつとつとつとつと
是又おぼつたつとつとつとつとつとつと
乃よ引いもんとつとつと運は雑つとつと

淵明ハ餘行を修むじとてハカク淵明の如
 事の井底ハ蛙なりや淵明ハ是よりハ
 譽をうたへて淵明をまわがし。まも進
 退をよらつま若たれハ庐山ハたもし
 柳下惠ガ如くをげまは韓退之ガ衣
 をやびりんまへし靈運ガ蓮社よりんと
 求む賈王智度ガ鉄衣をぬま僧衣を
 きふは甲ふべし富貴をぬまふんじと
 とげしむじまはむじと一旦ガ外ハ
 しくんまはら若たれハ遠師志
 ひていありまはむじとてしむじとていり
 飲酒戒をやがハ虎溪の橋よまはて三笑
 杖名あれハ圓のほま肩を擡てゆりまは
 まん又遠師ガまはらまはあはのて
 了譽のうまハ圓のまはらまはあはのて
 しかんまはらまはむじとてまは
 智のまはらまはむじとて飲命ハ便利等ハ
 事ガまはら死人の同とて
 止ん人の止修も人の修まはら
 止観修ハ修の也天觀行の二つまは

可シニススハシヤ 靴カウもカつクたタあアとト蹴ケむム〜

韻會。靴居共切。説文。蹋鞠也。徐按。蹋鞠以羊為圖。古實以毛毳。蹴鞠為戲。晉蹋鞠。古今注。漢帝習。岳之執。劉向別錄。蹴鞠。黃帝造。以練武士。或云。起戰國。漢霍去病傳。穿域蹋鞠。注。暇度曰。穿地作鞠室也。

双フタ六ロクのノとトあアらラいイ〜人ニよヨまマ行ユク〜いイ〜

いイ〜んンとトらラいイ〜いイ〜いイ〜いイ〜いイ〜

いイ〜れレのノいイ〜いイ〜いイ〜いイ〜いイ〜いイ〜

をオ〜つツ〜いイ〜いイ〜いイ〜いイ〜いイ〜いイ〜

けケ〜いイ〜いイ〜いイ〜いイ〜いイ〜いイ〜いイ〜

保ホ〜んン〜いイ〜いイ〜いイ〜いイ〜いイ〜いイ〜

双六 説文。博局戲。六着。上。其者。鳥曹作博。尹父子。

日博。盡。開。塞。之。宜。得。周。通。之。路。聲。譜。博。陸。米。名。也。陳。

思。王。制。雙。陸。局。置。骰。子。二。至。唐。末。有。葉。子。三。戲。未。知。誰。

置。遂。加。骰。子。至。六。骰。合。作。投。投。擲。之。義。今。作。骰。亦。

道ミチ〜いイ〜いイ〜いイ〜いイ〜いイ〜いイ〜

おとしり事とさしり念とさしり事と定て國を
を治るといふ事とあやうゆらるるを定て民を
おとしりてさしりてさしりてさしりてさしりてさしりて
さしりてさしりてさしりてさしりてさしりてさしりて
は事とさしりてさしりてさしりてさしりてさしりて
めんてさしりてさしりてさしりてさしりてさしりて
北宮黜益施舎う勇とさしりてさしりてさしりて
見の法とさしりてさしりてさしりてさしりてさしりて
中華并西夷の双陸と載とさしりてさしりてさしりて
國の双陸とさしりてさしりてさしりてさしりてさしりて

困基双六好とありてさしりてさしりてさしりてさしりて
はもとに悪事とさしりてさしりてさしりてさしりて
事。耳にさしりてさしりてさしりてさしりてさしりて

困基 博物志堯造困基以教子丹朱。或云舜
以子商均愚故作困基以教之。其法非智不能也
論語陽貨篇。飽食終日無所用心。難矣哉。不有博奕
者乎。為之猶賢乎已。
孟子博奕好飲酒不
顧父母之養。不孝也。

四つと五逆 四つとあ戒の内飲酒と除て殺盜
淫五を云律は波羅夷罪と云唐は斬頭罪と

悪人の罪とさすに軽い生をさすはくしくい
四重罪と犯せる憾悔しくも滅せざり也

五逆罪ハ殺父殺母殺阿羅漢破和合僧出佛身
血

うれ因基れ道は竟率の時よわきといひ傳
ふまじい海もくもあつてはれ陸象出
因基とん河因の教あつてはれはれ
老れくくきでいあつてはれはれ
胡且もとれたるといれ聡明なる老とく
とびうたは事とてい下愚小人とてい

かりわくといつてはれあつてはれ也聖人の
い海あは博奕とたよとていせしはあつてはれ
とあつてはれ終自づつとあつてはれ博奕とら
とあつてはれとあつてはれとあつてはれ聖人博
奕と人よとてい教つよあつてはれとてい
用ら事とてはれ罪をあつてはれとてい
うらにをのづつ博奕とていとてい
あつてはれ

ちあつちとつちと人いさつちと人しをさつちとつちと
られつち

しと出河の松平の

菊亭兼季之也西園

寺大政大臣安兼三男也

有栖川 歌林よ云有巢川 松院邊ちりやう

いつしはのまゝと河松とともよぞかげいよま

京極前 右二條大皇太后元が美茂のつちとつち

大政大臣 時中院よく松枝映水といふととつちとつち

又云右のまみそらふおれてわらと川いひとつち

とつちとつちとつち 西行法師 右中院おつちとつち

て中院乃まをまをまをまをまをまをまをまをまを

けりまをまをまをまをまをまをまをまをまを

一葉抄云伊勢の奇宮乃野宮は美茂のつち

まのつちありが美茂の奇院の野宮は美茂のつち

ありまをまを 是れまをまを

大秦殿 信清公也号坊門又号大秦内府開白道

隆公也後也

女房はまをまを まをまを義未詳

凡人物はまをまをまをまをまをまをまをまを

力を孟勞といひ矢を金僕姑といひ搦と骨

朶ダといひ魚イサを娘隅ヌナグといひ餅モチを牢ラウと云れ都ツ

いしきさうさあさ子サシ載ツとる人の名ナと云れ

寓ダク言ゲンをれレ鬻ケツ缺ケツ王ワウ倪ニ被ヘ衣イ意イ而ニ子シ也ヤ鄭テイ志シ以ヒて

解ゲ釈シヤクとす又マタ佛ブツ經キヤウもモ不フ翻ホン乃ハ梵ボン語ゴありコトハ

元ゲン朝テウの人ニ乃ハ名ナハ胡コ語ゴ多タ一イチ鉄テツ木ボク真シンと成シ音キ

思スといひ達ダツ魯ロ曾ソウ花カ赤シヤク窩ワ洞ドウ台タイ弘キヤウ吉キ刺ラ速ソク不フ臺タイ真シン

都ツ刺シ合カ蛮マン失シツ烈リヤク門モン忽コツ必ヒツ列リヤク元ゲン良リヤウ哈カ多タ阿ア藍ラン答カ兒エ阿ア里リ

不フ哥カハ合カ思シハ不フ曾ソウ花カ阿ア合カ馬マ阿ア里リ海カイ牙ヤと云れ

類ルイあげてテとト蒙モウ古コの音オンあれレとト此シ字ジハと云れ

字ジハと云れ中華チュウワの音オンはらレと云れ

てうれレと云れトはらレと云れトと云れトと云れトと云れト

けケをヲ多タ一イチ山人サンジンの口クハよりシと云れト天テンを

天テンと云れト地チをヲ地チと云れトの理リ自然ゼンゼンなり

自然ゼンゼンの事コト於オあれレ則ソウ自然ゼンゼン乃ハ言ゲン語ゴありコトと云れ

なレ文字モンジの母ボありコトと云れトと云れトと云れト

是シ母ボありコト又マタ子シと云れトと云れトと云れト

をヲ比ヒ俗ソク統トウにニ稽キりコトしコトと云れトと云れト

縁エンと云れトかんカンと云れトと云れトと云れト

妻メをヲ妻メと云れトと云れトと云れトと云れト

宿河原とくをたうちをたうちくたひくあらま。

九品の念佛よりきつるが、かゝる入道がうの。

りは半中をうら房もがうもゆるはと。

舞えれた中よりおちての路へ。

遊の谷の山へ舞字と日者也なまはし師。

あまの山へ東國をうらまへる。

しんまの山へ山へ人おむりて。

恨もいぢりていぢりていぢりて。

面へさるる場なげらるる。

いぢりていぢりていぢりていぢりて。

いぢりていぢりていぢりていぢりて。

いぢりていぢりていぢりていぢりて。

いぢりていぢりていぢりていぢりて。

いぢりていぢりていぢりていぢりて。

いぢりていぢりていぢりていぢりて。

いぢりていぢりていぢりていぢりて。

いぢりていぢりていぢりていぢりて。

いぢりていぢりていぢりていぢりて。

いぢりていぢりていぢりていぢりて。

いぢりていぢりていぢりていぢりて。

いぢりていぢりていぢりていぢりて。

いぢりていぢりていぢりていぢりて。

いぢりていぢりていぢりていぢりて。

いぢりていぢりていぢりていぢりて。

女とすのりやわらわを若とあるはよはさくやん
るよ一人二母ハワのよ一人二母と痛たしむつ
よ一人四母と酒を好人もよ一人けしん常の無
六よは虚言しる人七に飲あはる人よよを
三あわ。一母と物くわく友二母ハワのよ。二よ
智恵ある友

けは朋友よ善悪あり事よ。福積よ益
者三五損志三友とありよ。中ハワのよさるくや
むとたよ一人ハワのよ。必論よ事あり
一萬章。女を問附。長貴と扶人て女たはじ

といつ。わらわも一人ハワのよ。人ハワのよ。陸放
翁が廿年豪英れ交。同参の夜雨よ。三つ
こくおんあるべし。痛さる。かつよ。一人ハワのよ。異を
たうれ。又飲食を。溶ふす。あ。他人と
これよ。せ。これ。我。これ。孟。襄陽。が。病
故人。疎。と。これ。と。これ。酒。を。この。し。人。
事。れ。み。これ。と。これ。一。僻。事。出。これ。と。これ。事。た
目。あ。た。げ。く。勇。は。兵。一。朝。の。い。ち。あ。も。と。こ
ま。れ。て。父。母。の。真。愛。と。り。一。暴。虎。馮。河。の。悔
是。あ。る。べ。し。虚。言。し。る。人。ハワのよ。事。と。り。べ。し。

方カタ北キタ陽ヨウ夏ゲツのノあハらハるル雁カキ小コ棚テふフ雁カキ北キタのノつツれレをヲお
 山ヤマ入イるル雁カキのノ出デ後ゴでテ海ウミをヲ泳ユぎギひヒてテおオうウ出デるル
 てテおオうウれレ物モノはハれレてテおオうウ出デるル雁カキ小コ棚テふフ雁カキ北キタのノつツれレをヲお
 事コト。見ミるル雁カキのノ出デ後ゴでテ海ウミをヲ泳ユぎギひヒてテおオうウ出デるル雁カキ北キタのノつツれレをヲお
 人ヒトのノつツれレをヲお
 鰓イシはハ義ギ食シらラ日ヒトをヲ好コトむムうウまマはハ

魚イシをヲ膠カウふフ初ハジメとト鯨クジラとト瑣サ碎サイ錐ヱ。鰓イシ魚イシ膠カウと
 墨スミはハ磨ハつツてテもモふフとトせセいイまマ黒クロいイてテ妻イメとト一ヒト
 とトありリ。そソとト周シュウ詩シもモ包ツク敵テキ魚イシ膾カイ鯉レイ。いイしシ豈イニ其キ食シ

魚イシ必カナラ河カハ之ノ鯉レイ。云クモ魯ロれレ者モノとト孔子コウジ（鯉レイ魚イシとト贈オウ）
 とトもモありリ。鰓イシ魚イシとトやヤんンとトいイふフ物モノとトいイふフはハいイまマ

佳カ魚イシありリ
 雉キジ 儀ギ礼レイ相サウ見ケン之ノ贄ニ各カク執シ雉キジ。夫ソノ夫ソノ執シ鳥トウ。雉キジ取トル其キ守シリ
 介ケイ不フ失シ節セツ。雁カキ取トル其キ俎サ時トキ而シテ行ユク也ナリ。魯ロ礼レイ納ノウ未ミ用ヨウ雁カキ

松マツ草クサ 本草ホノ綱カウ目メ。菌キノ蕈タン北キタ野ノのノ香カウ草クサと
 あアらラひヒ松マツ草クサ北キタ野ノのノ香カウ草クサと
 とト云クモ日ヒト中チュウ小コ草クサのノ字ジとトいイふフ身ミのノ字ジとトいイふフはハいイまマ
 もモあアらラひヒふフとトいイふフ貞テイ和ワ集シュウ有ユ松マツ草クサ領リョウ草クサ字ジ

本草綱目

書ころ鹿^カ年^ニは葦^ア乃^ノ字^ジ義^ギと^ト以^イて^テん^ンれ^レる^ル葦^ア

中^チ宮^{ミヤ} 信^シ深^コ草^{クサ}院^{ヰン}の中^ノに^ニ也^{ナリ}

山^{ヤマ}入^イる^ル處^{トコロ} 西^{サイ}園^{エン}寺^ジ實^{ジツ}氏^シ公^{キミ}也^{ナリ}常^{ジョウ}盤^{ハン}

井^イ相^{ソウ}國^{クニ}と^ト号^{ケル}し^ト則^{スレバ}中^チ宮^{ミヤ}の^ノ父^{チチ}也^{ナリ}

夫^{ツレ}雉^チと^ト鷹^{トウ}と^ト虎^コと^ト鹿^カと^ト三^{サン}代^{ダイ}の^ノ時^{トキ}より^{ヨリ}相^{ソウ}見^{ケン}

禮^{レイ}は^ハ用^{ヨウ}の^ノ物^{モノ}也^{ナリ} 樂^{ラク}典^{テン}は^ハ二^ニ生^{セイ}二^ニ死^シと^ト云^{イハ}ふ^ル

卿^{ケイ}大^{ダイ}夫^フは^ハけ^ケの^ノ美^ミ雁^{ガン}と^トも^モし^シ士^シは^ハ死^シむ^ム雉^チと^ト

わ^ワら^ラる^ル也^{ナリ} 鷹^{トウ}は^ハけ^ケを^ヲく^クし^シと^ト行^{カウ}列^{リツ}の^ノ次^ジを^ヲ

礼^{レイ}は^ハ用^{ヨウ}の^ノ物^{モノ}也^{ナリ} 雉^チは^ハ死^シむ^ム時^{トキ}に^ニも^モり^リ

と^ト宗^{ソウ}廟^{ボウ}は^ハそ^ソの^ノ時^{トキ}に^ニも^モり^リ 疏^ソ趾^シと^ト名^ナづ^クく^ク山^{ヤマ}深^コ

は^ハ雉^チと^トば^バ孔^{コウ}子^シと^ト時^{トキ}哉^カと^トの^ノ語^ゴつ^ツ也^{ナリ} 又^{マタ}雉^チと^ト葉^{エフ}

虫^{ムシ}と^ト名^ナづ^クけ^ケ 葦^アの^ノ衣^イは^ハえ^エる^ル也^{ナリ} 又^{マタ}鳥^{トリ}負^{オウ}よ^ヨ羽^ウ

映^{エイ}夏^カ翟^チと^トあ^アる^ル羽^ウは^ハ五^ゴ色^{シキ}乃^ハ雉^チと^トも^モり^リ

そ^ソの^ノ羽^ウを^ヲ旌^{セイ}旗^キ車^{シャ}服^{フク}に^ニ飾^{カケ}と^トす^スり^リ也^{ナリ} 是^{コト}も^モ一^{イツ}也^{ナリ}

か^カと^トも^モ一^{イツ}也^{ナリ} 然^{シカモ}も^モ 鷹^{トウ}と^ト雉^チと^トは^ハい^イは^ハれ^レ

は^ハあ^アる^ル也^{ナリ} 大^{ダイ}夫^フは^ハ鷹^{トウ}と^トも^モり^リ 若^{ニシ}し^テ 見^ミへ^ヘ士^シは^ハ雉^チと^ト

か^カと^トも^モ一^{イツ}也^{ナリ} 禮^{レイ}を^ヲた^タと^トも^モり^リ 雉^チと^トは^ハ用^{ヨウ}の^ノ物^{モノ}也^{ナリ}

用^{ヨウ}の^ノ物^{モノ}也^{ナリ} 是^{コト}も^モ一^{イツ}也^{ナリ} 是^{コト}も^モ一^{イツ}也^{ナリ} 是^{コト}も^モ一^{イツ}也^{ナリ}

也^{ナリ} 是^{コト}も^モ一^{イツ}也^{ナリ} 是^{コト}も^モ一^{イツ}也^{ナリ} 是^{コト}も^モ一^{イツ}也^{ナリ}

庖厨をばらぬ義ありていふや

鎌倉れ海よ。しそいさ魚はなほらうひもはらう
たす物とせば比もてさぬの也。うれ鎌倉れ
年よもの日侍らば魚よのれらわうし
せいでらばはらうし人のあはれおとす侍ら
さるや。うれはらうし人のあはれおとす侍ら
しよの也。とてかまはらうし物もせぬまよあれ
む。いさ魚もいさ魚もいさ魚もいさ魚もいさ魚も

鯉と云ふ。本草綱目韻書等も明らむ。

海篇心鏡の鯉音堅大鯛也とあり。萬葉集

九水江之浦島兒之堅魚釣鯛釣於及七日と云

也。又式部大輔石上堅魚朝臣といふ人の言

し同才のいさ魚の事あり。倭名集の鯉魚カッラと

あり。計の鯉も堅魚ともあるや。然もいさ魚

といふ名かられるは魚也。又は魚をいさ魚

て。調味の料といふ事もある。いさ魚

魚の事あり。いさ魚の事あり。いさ魚の事あり。

いさ魚の事あり。いさ魚の事あり。いさ魚の事あり。

いさ魚の事あり

されども兼好もあつてもいふやうに寫してんと云は
まゝの中筆の書にも本物よわつてゐるものもある
り。又代々の名儒秀才の撰集文章。たゞよあ
たかしのいふもくは。羨事也

唐船の 尚書盤庚篇。若葉舟汝弗儻。臭厥
載

唐玄宗開元二年。胡人上言。海南多珠翠奇宝。因言市
舶之利。又欲往師子國求靈藥。聖妣上命。揚範臣往求
之。範臣奏曰。彼市舶與商賈爭利。殆非王者之体。胡某
之性。中國多不能知。况於胡妣。豈宜驗真。宮換。其
胡人眩惑。求媚無益。聖德上從之。通

越子物を室とを以 尚書旅教篇不
室遠物則遠人格

老子經曰。不實難得。化員使民不為盜

昔いふもの馬牛はるだく家畜ひつこと
いふものされがてふれおのされが
しきん大はらるるはるる人もの

物は清く麗く、
其胎肉をみるは、
生をく尚めて、
て策射も亡びて、
天子猷り鳥を愛せし
章孝標作詩阮

籍喋場人歩月子猷看處鳥棲烟
け句朗詠は乃きしり。王微之字子猷義。義之
か子也。風流の人也。晋は仕て。為黄へ侍郎。

詩の意いぞ竹間の桐子鳥のなみのづら
樹しつらゆんて。楽しと好義ありわ
めづらしし鳥

尚書族藝篇。珍禽奇獸。不育于國。

人乃才敏を文あしつらみて。聖の教を
ふれつを第一とし。次は利からし事。し
しつらつらたつと。是をなつて。し
學官は使わらんたあわ。次は醫術と習
る。もは使わらんたあわ。しつらつらたつと。忠孝なれば

手抄の事 書史會要よりとる所なり
 といふも王羲之の趙子昂をいふものなり
 されども人として其の味に入らば神妙なり
 名をとりて事なり。日本にも弘法道風依
 理行成。その外にもこれら多うなり。これら
 事の本も必ず其俗よなり。わがくにいふも
 もるべし也

醫術を習ふる 六人多く醫術と學
 ぬ。晋張華梁陶貞白唐孫思邈が類。全く醫
 者もあつては學問のついでに醫術を學ぶが
 者也。宋に東坡夢溪もよく醫術を志すものなり

あつては書籍沈良方也
 忠孝のほども醫術をうづむ

小学曰伊川先生曰病卧於牀委之庸醫比之不慈不
 孝事親者亦不可不知醫

引射馬乘車 周礼注礼樂射御書數謂之六藝
 五射一白矢二參連三剡注四襄尺五并儀 五御
 鳴和鸞逐水曲過君表舞交衢逐禽兔

六藝 一吉二軍三賓嘉五礼 二雲門咸池大磬大
 夏大濩大武六樂 三五射 在上 四五御 在上
 五象形指

事。會意。諧音。轉注。假借。八書。六方。由粟米布。裏分。
少。廣。商功。均輸。盈朒。方程。勾股。九數。

數。々々々。周礼注疏。小学。纂疏。よん々々。

食。八人の天あり。帝範。務農篇。夫食。為人。夫農。為

政本。倉廩。實則。知礼節。衣食。之則。忘廉恥。

史記。禮食。其傳云。王者。當人為天。而民人。以食。為天。當隱

曰。出管子。論語。大全。一。此。法。を引く。天者。人。實

而生者也。

郷黨篇。聖人。飲食の。品節。を志す。周禮

儀礼。禮記。にも。膳羞の。事を。詳し。と。載す。

飲食の。味。を。志す。一。初。の。時。を。志す。の。づ。つ。と。

一。入。の。節。を。志す。一。又。は。膳。を。志す。一。と。云ふ。

昔。牙。が。溜。澀。の。あ。つ。は。を。志す。や。な。ま。の。め。の。人

の。子。を。志す。義。と。し。て。國。の。み。を。志す。

る。す。事。の。あ。り。し。と。

次。細。工。唐。虞。乃。代。の。事。と。志す。人。會

工。の。事。と。司。し。し。と。周。礼。の。考。工。記。の

せ。り。り。の。器。を。は。り。し。と。志す。と。記。す。は

せ。の。ゆ。え。に。し。ら。ふ。と。し。し。と。志す。と。記。す。は

そ云或ハ畫ガクキの儀ハ樂ガクキを伴トナリふ也。或ハ樂ガクキを伴トナリふ也。論語子罕篇六宰問

子曰夫子聖者乎何其多能也子貢曰固天縱之將聖又多能也子
貢曰夫宰知我乎吾レ也賤故多能鄙事トナリ君子多乎哉不多也
子曰多者巧トナリ也樂トナリ也知者トナリ也

思舊賦序。魏晉康博綜技藝。於絲竹特妙。

函玄此道。ハ重抄。和氣に函玄辨トナリあり

は原。初多の管絃トナリとて。今の世を治難トナリと

云。その初多の管絃トナリとて。今の世を治難トナリと

云。その初多の管絃トナリとて。今の世を治難トナリと

云。その初多の管絃トナリとて。今の世を治難トナリと

云。その初多の管絃トナリとて。今の世を治難トナリと

云。その初多の管絃トナリとて。今の世を治難トナリと

云。その初多の管絃トナリとて。今の世を治難トナリと

云。その初多の管絃トナリとて。今の世を治難トナリと

云。その初多の管絃トナリとて。今の世を治難トナリと

云。その初多の管絃トナリとて。今の世を治難トナリと

云。その初多の管絃トナリとて。今の世を治難トナリと

云。その初多の管絃トナリとて。今の世を治難トナリと

云。その初多の管絃トナリとて。今の世を治難トナリと

云。その初多の管絃トナリとて。今の世を治難トナリと

身はらむこと。礼樂も。人の心する人
 に古今あれど。心は古今あらず。用は地は。
 今礼樂も。古の樂なるも。心あるも。心あるも。
 君も。一て。一て。行は。非は。心あるも。心あるも。
 風化。袖。俗を。く。ん。事。目。を。さ。う。く。て。い。ん。
 心。は。い。ゆ。ま。子。游。の。道。を。学。べ。の。君。子。は。
 人を。愛。ふ。人。は。は。ら。ひ。や。さ。し。く。ま。な。ま。
 孔子。ゆ。り。て。牛。力。の。相。と。づ。く。戲。す。
 かな。ち。と。ろ。の。心。は。あ。ら。わ。

たゞし人なる病あり 一切は人既にうらあ
 ちの。疾。病。は。な。く。て。う。れ。は。病。也。故。に。孔子。
 齋。戦。疾。乃。これ。の。成。は。く。ち。め。り。と。
 け。い。つ。の。心。ま。ご。ら。と。 念。と。衣。と。居。あ。ら。と。女。と。
 を。合。も。と。四。つ。と。は。 杜甫詩分類七多病所。
 須。唯。藥。物。微。軀。外。更。何。求。
 け。は。衣。食。居。僅。は。足。て。ま。づ。づ。に。心。を。樂。と。
 し。こ。し。つ。ち。外。を。病。ぐ。い。世。を。貪。ん。が。ら。こ。し。
 ろ。あ。ら。病。り。し。事。也。病。も。し。もの。が。ち。て。病。

せ。て。尊。卑。無。陋。卷。三。樂。と。あ。く。あ。く。と。別。指。示。
あり。衣。食。居。れ。三。等。を。き。の。む。い。の。あ。く。と。極。の。
も。は。潤。と。事。富。の。感。を。う。る。を。い。と。う。と。う。
を。を。貪。く。く。と。と。と。て。礼。を。と。く。義。を。と。く。い。か。何。
う。聖。門。の。樂。と。と。と。ん。と。れ。が。於。陵。の。陳。仲。子。を。
蛇。虺。を。わ。と。と。孟。子。乃。云。入。蛇。虺。必。意。を。入。く。

是。法。師。の。津。土。宗。目。し。ら。ず。と。い。ひ。の。聖。賢。を
い。く。と。き。と。明。常。念。佛。し。て。や。と。と。と。の。毒。
な。る。は。あ。く。と。あ。く。と。あ。く。と。あ。く。と。

是。法。師。新。千。載。集。才。八。難。下。是。法。師。
か。う。れ。て。お。お。り。と。せ。と。お。お。り。と。い。ひ。と。い。ひ。と。い。ひ。と。
又。新。後。拾。遺。集。才。八。難。下。と。い。ひ。と。い。ひ。と。い。ひ。と。
明。く。お。も。れ。だ。な。み。川。に。ほ。う。り。と。い。ひ。と。い。ひ。と。

人。を。と。ら。れ。て。字。千。九。日。れ。佛。事。お。威。聖。を。し。
し。佛。事。説。法。を。い。く。と。い。ひ。と。い。ひ。と。い。ひ。と。
か。う。と。い。ひ。と。い。ひ。と。い。ひ。と。い。ひ。と。い。ひ。と。

盤。地。上。集。

卷。三。

也。便宜也。

晋書。素耽字。彦道。桓温少時遊於博徒。資產俱盡。求
清於耽。變服博帽。隨温與。請主戲。耽素有藝名。
債者不相識。謂曰。卿當不辨作。素彦道也。遂就曰。千万。一
擲直上。百万。耽投馬。絕叫。以布帽擲地。曰。竟請。素彦道。
否。其通脫如此。

馬いづくらね。塞也。馬とくづらう。ハ象戯
ろごのいこ

あしめて益なれば事へいさめおぼし
やとひまや

論語先進篇。曾人爲長府。子襄馬曰。仍舊毋如之何。
何必改作

雅房大納言は。才かおくよ。人よ。大納言も
さう。やと。おぼ。さう。比。院。れ。近。習。た。り。人。ら。
い。海。後。ま。い。さ。う。を。見。付。め。つ。と。お。も。い。れ。ま。し。う。
い。事。う。と。可。き。給。け。ら。ふ。雅。房。の。存。る。よ。か。

しとては、はこり大だあをもるはらりあ。中チカ境サキ
れ完ワらり見ゆりつとトモさしちうふうとありくお
くおが、あて。目ヒまれば言キせしたるひ日ヒ井進ノボリ
る志シは、いづらさあ。は、りかの人ヒトを、と、て、れ、
りけるも、思オモひ、い、れ、た、大オホだ、い、あ、い、ま、は、事コト也。
虚ウソ言コトバの不ツ便ベなれども、い、ま、は、い、は、ら、せ、り、い、て。
い、ま、い、せ、り、い、け、り、事キ、い、は、ら、い、づ、と、い、う、と、い、事コト
あ、わ、大オホ、あ、い、け、り、物モノを、あ、り、い、ま、あ、た、く、あ、り、た、て。
あ、ら、び、い、み、ま、ん、人ヒト、の、畜チク生シヤウ、残ゼン害ガイ、れ、歎トク也ヤ、ま、れ、
ち、く、舞マシ、ら、い、て、い、り、い、り、で、せ、い、ま、と、あ、て、み、換カ、え、

なるい、ま、を、い、ひ、親オヤを、な、ら、く、い、ま、い、ま、い、ま、い、
孫マコを、み、い、ら、り、敬オヤシ、ら、り、も、は、事コト、い、を、情ナレバ、め、は、こ、
や、さ、ら、い、は、病ヤメ、癩カサ、ら、り、ゆ、い、し、人ヒト、ら、い、も、い、ま、い、ち、
て、事コト、は、ま、ら、り、い、ま、あ、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、
伊イ、は、ら、い、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、
い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、
い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、

雅ミチ房ノリ大納言正二後村上原氏号後土御門寺政大臣

定實サダノ公ノリの男ヲ

院シノの、ま、い、い、け、は、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、
院シノ、の、ま、い、い、け、は、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、

後深草ゴカス龜山後宇カメノ山ゴトウ也、但後深草龜山ゴカスカメノ山當トク時トキ法皇ホウオウ親ミコト

近習 礼記月令禁近習。注天子親幸者習ら。押也。
とつまらるゝこと

吾れ法んひいともうし。此事也

雅房犬の足をもさめて。殺さるゝんこと

と。お。慮らるゝ。は。あ。て。浸潤の諸もあつ

す事ら。な。げ。ま。げ。な。も。あ。は。事。を。あ。て

り。め。は。君。の。ん。ま。意。な。は。あ。ら。る。を。あ。て

宣王は。平。と。い。ふ。は。な。あ。あ。ひ。の。具。ん。ま。

あ。は。た。ま。り。と。あ。ん。と。う。あ。宋。は。世。宗。

は。洗。手。水。を。儀。の。う。ま。ま。せ。給。ら。ぬ。を。伊。川。氏。

心。海。は。た。ま。り。主。道。也。と。云。し。是。也

い。ま。は。の。の。を。あ。ら。る。佛。法。よ。殺。生。を。海

と。め。て。放。し。ま。た。ら。る。あ

い。の。め。た。ら。る。あ。り。季。氏。邵。氏。の。翻。難。也

事。の。あ。は。り。あ。ら。漢。宣。帝。唐。玄。宗。も。是。を

い。め。ら。又。言。行。録。も。王。荆。公。翻。鶴。は。い。の

や。ら。あ。あ。あ。あ。あ。相。換。入。道。宗。堅。翻。狗

を。い。め。ら。果。て。兵。乱。の。前。表。も。関

東。と。い。ぬ。昔。年。は。犬。を。殺。し。事。を。禁。む。ん

と。は。有。司。と。い。は。り。と。す。東。坡。が。云。礼。也。

仲尼の祠を載て蔽蓋不奔為埋狗也死して

捕其肉をくくつる況や是を殺さんやと云

畜生殘害 残害はごころひやがう也も獸出

魚れたびひよくいあを畜生を殘害と云俱舎

乃鳥獸といはるるも

莊子の虎狼仁也とありつれそりも虎狼

は父子相らうらずいもやそかれ鳥獸

昆蟲をる夜鶴の子を憶ひ也様乃勝と断

是也桓山之鳥は子の子の別と悲し

此號て新鳥の哺とて雙乃莊子の死母

食うの親とがうと母よあふとも猿の猿

雌と麋の鹿とほるるみ鱈と魚とあそぶと

齊物論もろくくも獸も此物あり鳥も雌雄

あり終る此狐奔る此鷄同宿の此鸞雙雀の

孔雀比翼比目比肩の物も至るる皆是也

なかなふあふや詩周南の蝻斯か好忌を

と傳ふは餘畏の福しむ事ありと志るべし

大鵬の怒りて飛び竄成り怒りの乳虎は

越王の怒蛙をんくし蟬のるるを父と

かゝるいふありしと

顔回 ガクタイ 論語公治長篇子曰益各言尔志 ツクゼン 顔淵曰

無伐善無施勞 セホユク 朱子注云伐誇也善謂有能施 ハナシ

亦張大之意 ハナシ 勞謂有功或曰勞者事也勞事非已所

欲故亦不欲施之於人

物を志すたぐお事 志すは心むしる也

究字也 エテ 妄實の罪 ツミ を蒙ておひく事なる

を究と云又虐字とせしめとあり

賤 ヒレ 民 タニ 志 ココロサシ

論語也 ロ 不可奪志 スラフ

いふはたかた子とす

禪録 ゼン 録 ロク 賤 ヒレ 民 タニ 志 ココロサシ

云語あり 釋典 シヤクテン 小兒 コエ のなり時 トキ 其 ソノ 業 ノトモ

を金 カネ ありしとて小兒 コエ ありしとて トモ 業 ノトモ 止 トメ

歸 キ といふなりしとて トモ 業 ノトモ 止 トメ の種 タネ 方 カタ

便 ニ といふなりしとて トモ 業 ノトモ 止 トメ の種 タネ 方 カタ

といふなりしとて トモ 業 ノトモ 止 トメ の種 タネ 方 カタ

といふなりしとて トモ 業 ノトモ 止 トメ の種 タネ 方 カタ

真 マコト 寺 テ の鬼 キ ありしとて トモ 業 ノトモ 止 トメ の種 タネ 方 カタ

といふなりしとて トモ 業 ノトモ 止 トメ の種 タネ 方 カタ

といふなりしとて トモ 業 ノトモ 止 トメ の種 タネ 方 カタ

へ陸續 リク 懐 イ 橋 キウ の返 ヘ 事 コト といふなりしとて トモ 業 ノトモ 止 トメ の種 タネ 方 カタ

山はさうな小児もれりしはたしめぬもかれと
 ねどりらまへんもせんかたもや。蓋しはるかに
 幾時隣家よりの風ありしはかんと母よ
 されどつらめり海はるかにあまわしむ
 母の情をいさめはるかにゆるめりて然
 いのこをいそぎ孟子よりし。初子常視母誑
 とつら礼の本より相叶つる蓋母がこころは
 一もまゝに賢也

ねどりまの人のこころびりり 禅法も

随流認得性無喜亦無憂といふ佛能乃

頌あり。台教も不起一念れはを空劫以前と

所。威音那畔といひ道家よ混沌未分や

いひて真空よりこれ喜怒哀樂七情と盡

虚妄ありしは。これ断絶がこころ事。水よ

うつらひこころを杖とておんとするは似ら

ゆつよ起念れ無不生れ杖と。台家よは痛む

我儒よりかかれ寂然感通の理。未發已發

此中。いかに七情をこころんや。是真實より

して。虚妄ありあつて

もをいさるも 夏れ鳥の水と流

て大功あれど首滴をいづくゆゆら水とたけし
しうららもほきまらわいかんたされ水と人を
たけうしとと酒をのこて人の心をみざ
と水のこまといふゆらゆらさなり也

病をうくは 左傳昭公元年 醫和曰晦淫惑疾明

淫心疾 陶隱居云人生氣中如魚在水と油則魚

瘦氣昏則人病邪氣之傷人最為深重精神者

本宅身以為用身既受邪精神亦乱

七情の病あり事列子よのしうり文執事う故事と

しうめ病書より多し醫書にても多しとあり

養生論のこて汗を求ふ

秘山康養生論 夫服藥求汗或有弗獲而愧情一

集 漠然流離終朝終夜餐則噉然思食而曾子銜

哀七日不饑云精神之於形骸猶國之有君也

神強於中而形喪於外猶君昏於上國乱於下也故

君子修性以保神安心以全身愛憎不棲於情憂喜

不畱於意泊然無感而体氣和平又呼吸吐納眼

食養身使形神相親表裡俱濟也 文選

凌雲の額を書く

世說新語補十云凌雲臺樓觀精巧先稱年

象木輕重然後造構乃無錙銖相負揭室雖高
 峻常隨風搖動而終無傾倒之理魏明帝登五雲臺懼
 其勢危別以大材扶持之樓即續壞論者謂輕重
 加偏故也。洛陽宮殿薄曰後臺上壁方十三丈高九尺。樓方四丈高五丈。擗去地十三丈五尺七寸五分也。
 章仲將能書魏明帝起殿欲安榜使仲將登榜題
 之既下頭鬢鬢然因敕兒孫勿復學書。文章彙錄曰章詵字仲將京兆杜陵人太僕端子有文學善書屬辭以光祿大夫卒衛恒曰徐書勢目詵善楷書魏宮觀多詵所題明帝立陵霄觀詵先劍榜乃筆成盛詵轉長細引使就題去地二十五丈詵甚危懼乃戒子孫絕計楷法著之家令
 又魏書廿一章詵傳云

物。あううの己を捉て人母さうひ我あせ
 けて人を先しうめはあうと。あれ遊よと勝負
 をこえひ人を勝て真あらん為也。をれうう真あ
 うりあう事をうらあぶ。されはゆきて真の
 そめあひ事。うらあひ。我負て人あ
 うらうめんと思う。あうあうひの真なる
 し。人あひ。かへりうらあひ。あうあひ。あ
 ひと。あひ。あうあひ。あうあひ。あうあひ。
 あうあひ。人をさうらあひ。あうあひ。あうあひ。
 けり。あうあひ。あうあひ。あうあひ。あうあひ。
 けり。あうあひ。あうあひ。あうあひ。あうあひ。

楚樓上卷

三十一

時々得喪也

漁隱叢話介甫有絕句云莫將戲事擾真情
可適緣道我言戰戰兩處收黑白一枰何處有虧成
則固適性忘慮之語信有證矣若曾直於其不然如
偶無公事客休時席上談共投兩其心似蛛絲遊石落
身如蜩甲化枯枝湘東百誠其死天下中分尚可持誰為
吾徒猶愛月參橫月落不曾知則苦思忘形較勝負於
下着与介甫措意異矣

しつゝあゝ中々たりやあも

詩邶風云終風且暴顧我則笑詭浪笑故中心是慚
注莊子為人柱傷暴疾莊姜蓋不忍心存言
張子厚東銘戲言出於思也戲動作於謀也

ほめ真宴らわたらう

魏其侯武安侯

こもに漢帝の外戚のうて名を天下にあつた
酒をけなまらうけの灌夫酒失母ら
あ人中あしくあむる恨をわくみて天
子へうて魏其侯灌夫をさるされぬ
史漢乃本傳よかんくわ
人子傳らんとた

孟子無名^ミ指屈^ミ而不信^ミ指不^ミ若久^ミ則知^ミ思^ミ心不^ミ若
久^ミ則不知^ミ思^ミ謂^ミ不知^ミ類^ミ也。又^ミ不^ミ耻^ミ不^ミ若^ミ久^ミ倚^ミ若^ミ久^ミ
有^ミ
中庸云^ミ子曰^ミ射^ミ有^ミ似^ミ乎^ミ君^ミ子^ミ失^ミ諸^ミ正^ミ鵠^ミ友^ミ
來^ミ諸^ミ其^ミ身^ミ

人^ミは^ミか^ミん^ミの^ミこ^ミも^ミ君^ミ子^ミは^ミれ^ミは^ミあ^ミら^ミざ^ミれ
ど^ミい^ミん^ミの^ミま^ミれ^ミは^ミあ^ミら^ミぬ^ミみ^ミて^ミ学^ミ習^ミす
ま^ミじ^ミべ^ミし^ミ門^ミ乃^ミ意^ミ也^ミ僧^ミ正^ミ八^ミ日^ミと^ミに^ミ我^ミと
云^ミ字^ミを^ミ三^ミの^ミ掌^ミに^ミ書^ミて^ミみ^ミつ^ミつ^ミと^ミ孫^ミあり
門^ミ徒^ミも^ミか^ミい^ミひ^ミて^ミ孫^ミづ^ミせ^ミら^ミと^ミお^ミん^ミ其^ミ
る^ミよ^ミと^ミめ^ミら^ミん^ミば^ミら^ミら^ミる^ミと^ミか^ミん^ミ儒^ミと^ミ

か^ミん^ミ老^ミも^ミ人^ミと^ミ比^ミし^ミか^ミん^ミと^ミ思^ミは^ミし^ミる^ミ自^ミ暴^ミ自^ミ棄^ミ
ら^ミう^ミべ^ミし^ミゆ^ミづ^ミち^ミあ^ミら^ミる^ミば^ミら^ミら^ミる^ミ君^ミ子^ミは^ミ地^ミを^ミ
と^ミと^ミ仁^ミは^ミあ^ミら^ミん^ミた^ミら^ミん^ミ時^ミも^ミ人^ミは^ミま^ミま^ミん^ミ也^ミ
善^ミよ^ミや^ミら^ミら^ミと^ミと^ミ論^ミ語^ミ曰^ミ顔^ミ無^ミ成^ミ善^ミ
大^ミ力^ミの^ミ職^ミ 孟^ミ子^ミは^ミ齊^ミ邦^ミの^ミ位^ミを^ミ辞^ミし^ミ方^ミ鍾^ミの^ミ
禄^ミを^ミう^ミや^ミら^ミと^ミと^ミ百^ミの^ミ兼^ミ金^ミと^ミと^ミの^ミ都^ミ也^ミ

貧^ミし^ミもの^ミの^ミ財^ミを^ミり^ミて^ミ礼^ミと^ミを^ミら^ミる^ミ者^ミか^ミと^ミ
り^ミて^ミ礼^ミと^ミを^ミら^ミる^ミ者^ミを^ミら^ミる^ミ者^ミを^ミら^ミる^ミ時^ミの^ミ連^ミ

本館上巻

いかにしむ智と云はれしは人のあ
やうやせがなまきしと云はれしは人のあ
まじく誤るわらうしと云はれしは人のあ
かきと云はれしは人のあ

貧しきものは

曲礼云貧者不以貨賤為

礼老者不以筋力為礼

鳥羽此作ははるる所處きしと云はれしは人のあ
まきと云はれしは人のあ
まじく誤るわらうしと云はれしは人のあ
かきと云はれしは人のあ

鳥羽殿

白川院應徳三年立鳥羽殿

阮彦親王

陽成院の殿子

元日奉賀の初

賀の初より云々也

大極殿

拾芥云大極殿朝堂院正殿

又云八省院天子順朝即位諸司告朔新又謂之中直

壁柱上卷

李部王

延喜御子式部之重明親王也其

あつりて終ふ記録と李部王記と号し式部
を吏部と云ふ事は法式を因りての事也
云故也行理行吏行李此字皆通用しと云
音同しと云也左傳正義より云

とられたるは東沛枕ありて東に枕と

して陽字はうへさなふ孔子と東首

終つり寢殿のまつらひ或は南枕常と事也白濁

院とや首に沛寢ありけりといひし事也又

勢は南也大神宮乃此方と沛寢よとせ終ふ

事といふと人トけるはたゞ一と非之の遠

は寢にひるせ終ふと云はあつと

東枕あり 礼記云寢時東首

孔子の東首し終つり 論語御黨篇云疾君

視之東首加朝服拖紳 朱子注云東首以受生氣也

新安陳氏云天地生氣始於東方或問疾君視之方

東首常時首宜在邪邊 礼記自云寢常當東首矣

平時亦欲夢ニ氣恐不独リ疾時為然リ朱子曰常山
 時多ニ東首亦ニ適意ニ臥時節如記ニ請席何向請ニ
 何趾ニ這見得有ニ適意向時節然多ニ是東首故ニ王際
 云若常ニ寢常東首也常寢於北牖下君問疾則移於
 南牖下ニ

高倉院ニ法華堂ニ三昧僧ニあがりニ律師
 ころやニあニのニあニるニ耐鏡ニとニあニるニ形ニをニはニくニ
 てニ鏡ニをニたニまニりニてニあニるニとニあニるニとニあニるニ
 人目海ニりニ事ニのニ油堂ニはニあニがりニあニりニ
 あニひニてニ鏡ニ居ニとニあニるニとニあニるニとニあニるニ
 ぼニろニりニ

高倉院 後白河院才三の法子

三昧ニ此ニ云ニ調直定ニ又ニ云ニ正定ニ亦ニ云ニ正受ニ其ニ案ニ疏ニ云ニ此ニ謂ニ
 受ニ名為ニ正受ニ遠法師ニ云ニ是ニ稱ニ三昧ニ者ニ何ニ專ニ思ニ寐ニ想ニ之ニ謂ニ也ニ
 思專則志ニ不ニ分ニ思寐則ニ氣ニ虛ニ神朗ニ氣虛則ニ智ニ恬ニ其ニ照ニ

神朗則無_レ幽_レ不_レ定_レ斯_二乃_一是自然之玄符用_二而致_一也。
 云、天台止觀略明_二四種_一常坐_二常行_一半行半坐
 四_二昧行_一坐_二四種_一三昧皆依實相。實相是安樂_レ
 法四緣是安樂_レ之行。所以始末皆依法華。即法華三
 昧之妙行也。翻譯名義集詳也。

鏡をとりて

三國志魏夏侯惇從征呂布為流矢所中傷_レ九目時
 夏侯惇與惇為將軍。中_二号惇_一為盲夏侯惇怒之
 每覽照_二志怒_一輒撲_二照_一着地

白樂天感鏡詩。今朝拂拭_二自照_一。顏_二容_一照_二四_一角_二重_一。
 背有_二雙盤龍_一

許_二暉_一詩。高歌_二面掩_一明鏡。昨日_二少年_一。今_二白頭_一

あーげる人し人のうをのりあつもの
 ときをいさふはあわ我をいさふはあわ
 ときわらわあふはあわはあわのれをいさふ
 物とわらわ人といさふはあわはあわ
 ときわらわのりあつものいさふはあわ

本居宣長

するはふいづてづつしもまづつしじう也食
 事のおしづる命とてゆる大事はふいづ
 人のおしづる命とてゆる大事はふいづ
 論語学而篇。不患人之不知也。患己之不知也。

求在我者故不患人之不知也。知在彼者故患人之不知也。

老ぬとさうばかんが閑よ

人生待足何時足味老得闲方是闲

尚書大禹謨念茲在茲

雪れしう 古今春の自れ光にあはる我みれ

雪れしう乃雪とらふらうび

高塔詩人生莫遺頭如雪縱得春風亦不消

東坡三馮顛久已歌殘雪

賀季子大純言入道このやあけける人具氏宰相
 中將はあきそわめいのとらぬがものこと何事か
 とも谷りさあんやとらぬがものこと何事か
 信くんとすまはるはあはるはあはるはあはる

大塚の府系わ路ひて。有るはわが物
かゝい侍はんとかぶらむりや。又まじれ
る備も侍はんとかぶられわきれよ。土備
よと。わかれのや。既よあつた。
これよりよむ。成る。わあ。なま。

あつた

故法皇

花園院号

萩原法皇

本草

神農

神農はわが作り路ひ。梁陶隱

毫を注。唐宋は儒醫代々増薬あり

神農はわが作り路ひ。梁陶隱
氣味能毒寒熱温涼。うりにあ。お遠りか

ま。と。と。と。云也

六条の故内府有房。従一位内大臣。和漢の才能

書也。村上源氏。通光公孫也

一。か。と。い。ふ。文字

韻會。鹽。余。廉。切。説文。醜也

公。監。監。古。者。風。沙。初。作。者。海。鹽。徐。曰。黃。帝。臣。也。

集韻。或。作。鹽。摠。俗。作。監。非。是。監。居。銜。切。从。臥。血。

省。色。臥。五。貨。切。伏。也。从。人。臣。取。其。伏。也。人。臣。事。君。俯。

倭也

つらね梅 ありまけりはらわし 去時編書
三ツリ

あつちのち

かみみへ成りまゝ ちりちりちりちり

響ヒビクをいひまゝあり

秋萩よりいひまゝありの山とみ麻呂
拙人のあまひにありの山とみ麻呂



